

(2) 千葉県環境白書でみる水質の変遷

① 昭和 60 年版白書

河川は、「養老川、夷隅川、小櫃川、小糸川上流等は BOD3mg/L 以下と比較的良好な水質であるが、印旛沼、手賀沼に流入する桑納川、大津川、大堀川及び都市部を流れる坂川、真間川、国分川、海老川、都川等の河川は依然として汚濁が著しい」と評価しています。

湖沼は、「印旛沼、手賀沼の水質は依然として汚濁が著しく、前年度と比べ悪化している」と評価しています。

海域は、「富津岬以南の東京湾内房海域及び南房総・九十九里地先海域は、おおむね良好な水質であるが、富津岬以北の東京湾内湾海域では、依然として汚濁がみられる」と評価しています。

BOD 及び COD の環境基準を達成しているのは、68 水域のうち 21 水域であり、達成率は低い状況にありました。

② 平成 27 年版白書

関連 URL

平成 27 年版千葉県環境白書／千葉県

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kansei/kankyohakusho/h27.html>

河川は、「26 年度の BOD (COD) 年平均値からみた公共用水域の水質汚濁の状況は、都市域を流れる中小の河川で汚濁がみられます。」と評価しています。

湖沼は、印旛沼について「昭和 59 年度に COD 年平均値が最大値 13 mg/L を記録した後、徐々に改善の傾向で推移してきましたが、ここ数年は微増の状況です。」と評価され、手賀沼は「昭和 54 年度に 28 mg/L を記録するなど、昭和 49 年度から連続 27 年間全国湖沼水質ワースト 1 位でしたが、下水道の整備などの対策に加えて、12 年度から実施された「北千葉導水事業」(浄化用水の注水)により水質が大幅に改善され、13 年度にはワースト 1 位を脱却しました。26 年度は COD 年平均値が 7.6 mg/L となり、測定を開始して以来、最も良好なものとなりました。」と評価しています。

なお、環境基準の達成率については、「生活環境項目のうち有機汚濁の代表的な水質汚濁指標である BOD (河川)・COD (湖沼・海域) の環境基準を達成したのは、類型指定されている 85 水域のうち 60 水域であり、達成率は 70.6%と、前年度から 1.2 ポイント低下しました。」としています。

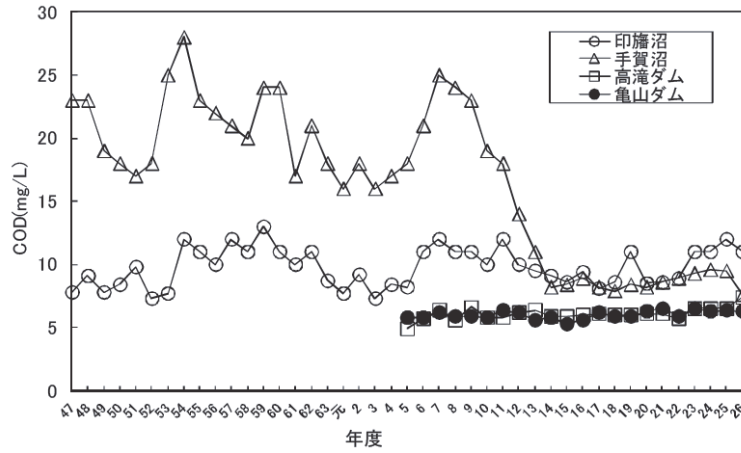


図 湖沼のCOD年平均値経年変化

海域では、「COD年平均値で見ると、内房では1.2～2.2 mg/L、九十九里・南房総海域では0.8～1.4 mg/Lとおおむね良好な水質を維持していますが、東京湾の内湾部では2.5～4.1 mg/Lであり、一部の地点で「きれい」とされる3 mg/Lを超えています。」と評価しています。

下図のとおり、東京湾内湾も水質は横ばいで推移しています。

